

## 5) 環境に優しい農業に対する支援

# ①小ギク生産における環境負荷低減技術の普及

対象：西和花卉部会

## 1. 概要とねらい

平群町の小ギク産地では、大規模な農地造成から10～15年程度経過し、有機質資材を利用した土づくりの励行により地力が向上しているにもかかわらず、造成当初の低地力土壌に対応した多肥栽培が続けられている。また、抑草や保水などを目的としたマルチ栽培が行われているが、毎年大量の廃棄プラスチックが発生していることから、これらを低減させる取り組みが求められている。

そこで、現在の圃場に応じた適正施肥や、土壌中に鋤込むと完全分解する生分解性マルチの導入に向けた現地実証試験及び啓発活動を行うことで、肥料の使用量や廃プラ発生量を低減させ、環境への負荷が少ない生産方式への転換を図る。

## 2. 活動内容

### 1) 減肥栽培の推進

平成18年度より継続して現地試験を行うとともに、施肥実態調査(30戸)や啓発活動を実施した。

表1 現地試験の概要

実施年度	試験圃場数	作型	窒素施用量
平成18年度	5か所	10月咲き	20～24kg/10a
平成19年度	6か所	10～11月咲き	21～26kg/10a
平成20年度	10か所	8～11月咲き	17～26kg/10a

### 2) 生分解性マルチの導入推進

平成9年度より現地試験を実施してきたものの、分解速度や強度の面で問題があったため導入が見送られてきたが、昨年度、盛夏までの作型で利用される黒色マルチでようやく実用性の高い資材が検索されたことから、今年度は産地への実用導入を目指した。また、盛夏以降に収穫する作型で利用される白黒ダブルマルチについては、現地試験により有望資材の検索を行った(4資材で実施)。

## 3. 成果

### 1) 減肥栽培

- ・継続した啓発活動により、産地全体で減肥栽培が取り込まれるようになった。(30戸の平均窒素施用量：H17年:39kg/10a→H20年:31kg/10a)
- ・3年間の現地試験の結果、施肥量を大幅に低減(N20～26kg/10a程度)させても、小ギクの商品性に問題がないということがわかった。
- ・現地試験では、草姿がわるく改善が望まれている特大比率は低減しなかったが、下位等級(2級)比率は低減するとの結果が得られた。
- ・肥料価格が高騰する中、減肥栽培の普及により経費の上昇を抑えることができた。

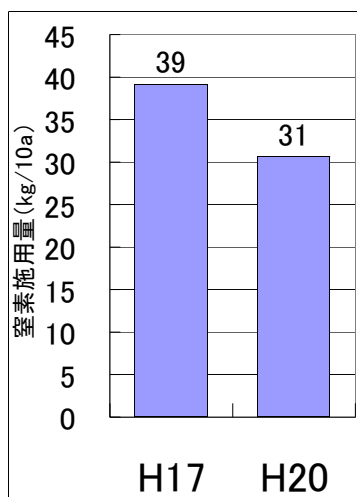


図1 平均窒素施用量の推移(30戸平均)

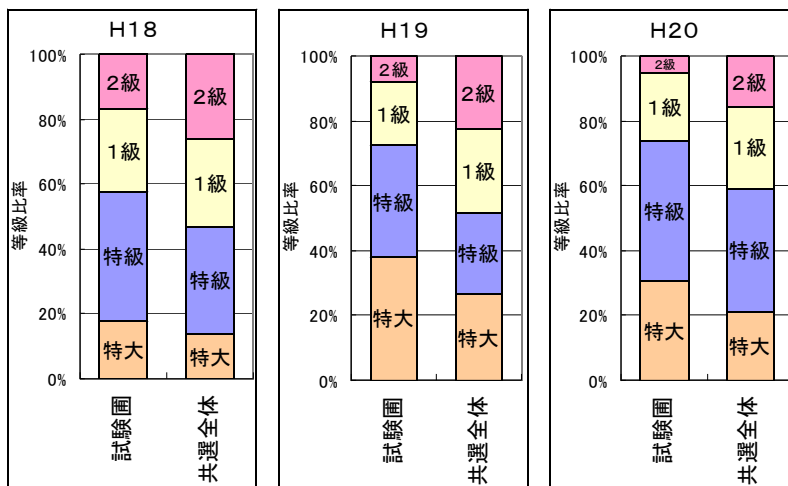


図2 試験圃場と共通選全体との等級比率の比較

(試験圃場：H18・19は10月咲き、H20は9月咲きの平均)



減肥栽培試験圃場



生分解性マルチ現地検討会

## 2) 生分解性マルチ

- ①黒マルチ：95aで実用導入が図られた。
- ②白黒Wマルチ：4資材中2資材で一定の実用性を確認することができた。

## 4. 今後の展開方向

- 1) 産地全体の施肥量は低減しているが、さらなる低減が可能であることから継続した啓発活動を行うとともに、土壌診断に基づいたきめ細かな施肥設計を行うなどして一層の低減を図る。また、特大比率の低減方法についても検討し、さらなるの商品性の向上を図る。
- 2) 黒マルチは導入面積の拡大を推進する。また、白黒Wマルチは今年度良好な結果が得られた2資材について継続試験を行い、安定した実用性が確認できれば実用導入を図る。

## 5. 協力機関名

J Aならけん、農業総合センター、資材業者（全農、太洋興業(株)、アグリドリーム(株)、(株)エニック）